

## 【NEWS RELEASE】

2022年1月31日

各位

株式会社三井住友銀行

いちご株式会社に対する「ESG/SDGs評価」に基づく  
シンジケート・ローンを実施

株式会社三井住友銀行（頭取 CEO：高島 誠）は、いちご株式会社（代表執行役社長：長谷川 拓磨）に対し、「ESG/SDGs評価シンジケーション」における「ESG/SDGs評価」に基づくシンジケート・ローンを組成いたしました。

「ESG/SDGs評価シンジケーション」は、株式会社三井住友銀行と株式会社日本総合研究所（代表取締役社長：谷崎 勝教）が作成した独自の評価基準に基づき企業のESG（※1）側面の取組や情報開示、SDGs（持続可能な開発目標）（※2）達成への貢献を評価し、その趣旨に賛同いただいた金融機関によって組成されるシンジケート・ローンとなります。

今回のいちご株式会社に対する評価結果は、「企業理念・サステナビリティへのコミットメント」、「気候変動への対応」、「ローカル／グローバル・コミュニティへの配慮」において非常に高い水準であると判断されました。企業経営において優れたESG・SDGsの取組と情報開示を実施されており、また、事業を通じたSDGs達成への貢献意欲が高いとの評価となりました。

ESG側面の取組、情報開示では、以下の点等が評価されました。

- ① 「サステナブルインフラ企業」として、不動産事業を通じて地域貢献・社会貢献を果たすことを経営トップがコミットしている。本業を通じたクライメート（気候）・ポジティブへの取組として、クリーンエネルギー事業を推進する他、自社の事業活動に伴う環境負荷削減に向けて、RE100に加盟し「脱炭素宣言」を表明。国連グローバル・コンパクトに署名する等、国際イニシアティブにも賛同し、ESGの取組を積極的に推進している点
- ② Scope1,2だけでなくScope3として、原材料調達先や顧客先におけるCO2排出量を把握している。また、クリーンエネルギー事業において、開発確定を含め全国67箇所・約198.9MWの再生可能エネルギー発電所の開発・運営を行い、再生可能エネルギーの拡大に寄与している点
- ③ 女性の活躍が進んでおり、管理職（チームリーダー以上）における女性比率は、31.6%（2021年2月末時点）である。また、事業を通じた地域活性化の取組として、航空会社と連携した地域農産品の販売促進や、太陽光発電事業を通じた地域経済の再生、スマート農業支援を通じた地域雇用創出等に取り組んでいる点

加えて、事業を通じて、SDGsが示す「目標7：エネルギーをみんなにそしてクリーンに」、「目標11：住み続けられるまちづくりを」等の達成に向けて明確な意欲をお持ちです。

三井住友銀行では、「ESG/SDGs 評価シンジケーション」により、お客さまの ESG/SDGs への取組を、金融を通じて支援してまいります。

<いちご株式会社の取組事例>



関東初、農山漁村再生可能エネルギー法の活用

農林漁業の健全な発展と調和のとれた再生可能エネルギー発電の促進に向け、茨城県取手市や地域とともに取り組んだ太陽光発電所



自然災害時の迅速な現地入りによる対応

いちご株式会社のエンジニア・建築士等が迅速に被災地入りし、緊急安全措置や地域住民への物資提供を実施

<ご参考>

※1 ESGとは

ESGとは環境 (Environmental)、社会 (Social)、企業統治 (Corporate Governance) の頭文字を取ったものです。いずれの側面も企業が事業活動を展開するにあたって配慮や責任を求められる重要課題として考えられています。

※2 SDGsとは

Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標) の略称。国連総会で採択された、新興国だけでなく先進国等あらゆる国と地域が、貧困や平等、教育、環境等、「誰も取り残されない世界」の実現を 2030 年までに目指す 17 の目標と 169 のターゲットのことです。

以 上

このニュースリリースは、投資や勧誘を推奨することを目的としたものではありません。